

天文教育 7

2018

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



<特集> CAP2018 in Fukuoka JAPAN

<投稿> 皆既日食 2017 in Salem 報告

<連載> 社会教育施設について考える (WG 報告)

<報告> 関東支部会の開催報告

<その他> 2018 年代議員および会長候補・監事候補者選挙結果の報告

／2018 年天文教育普及研究会年会のお知らせ ～第五報～

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文学・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6～10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2～4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・ **締め切り**は1は原則として奇数月末日、2～7は偶数月15日。投稿先は post@tenkyo.net です。

・ **広告掲載**を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000・、半ページ ¥12,000・、1/4ページ ¥7,000・、チラシの折り込み ¥20,000・です。

※本誌に掲載された記事は、当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) にて PDF ファイルの形で公開を予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。

なお、2014年9月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限をかけた形で閲覧できるようにし、発行から1年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開いたします。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・ 原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・ 執筆用のテンプレートがホームページ (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・ 十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・ 提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・ Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・ 原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記アドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

岐阜荘川の大水車と天の川

撮影日時：2018年6月12日24:13～（30秒露出）
カメラ：Nikon D810a ISO6400 14mm F2.8->3.2
撮影者：船越浩海、撮影地：岐阜県高山市荘川町

東海北陸自動車道を荘川ICで下車し、国道158号線を白川村方面に進み、5分程進んだ所に「そばの里荘川」がある。荘川は、隣接の「ひるがの高原」（岐阜県郡上市）と並び、星見スポットとして知られている。

ここには日本一の大きさの五連水車があり、蕎麦粉を挽くための水車は、最大で直径13mと見上げる程の大きさだ。昼間は観光客で賑わうそばの里も、平日の深夜はひっそりとして、広い駐車場を挟んだ国道のライトが、水車をほの暗く照らしていた。国道に面していながらも、肉眼でしっかりと天の川が分かる。これら水車と天の川のコ

ラボは、岐阜の山里らしい星景だ。

その中で、惑星たちの饗宴も眼を惹いた。ひときわ明るく輝く-2.4等級の木星（写真右の輝星）に、天の川の中に控えめに輝く土星（0.1等級）、木星に匹敵する明るさの火星（写真左の輝星）は、6月12日の時点で、-1.5等級にまで増光している。

火星は、地球と最接近する7月31日には、-2.8等級になり木星を越える明るさになる。太陽を周回する軌道上で、インコースの地球が火星を追い抜く格好だ。この時期に逆行という現象も起きる。

火星の明るさの変化は、肉眼でも十分に追うことができる。夏から秋へと地球から遅れ距離が離されると、火星は徐々に暗くなっていく。明るさの変化を観察して、頭の中で太陽系の姿を想像するのも面白い。火星の観望好期終盤の冬には1等級になる。この頃には、きっと次の接近が恋しくなるだろう。

（船越浩海）